

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

学術情報の流通と図書館サービス

——蓄積から流通へ——

事務部長 矢 野 光 雄

いま学術情報の流通問題が問われている。何故問われているかと言うと、情報要求者が、必要な情報を思うように入手できないからである。情報量の増大と質の多様化で予算的にも人的にも収集蓄積が追いつかないためであるが、こゝでは、既に図書館（厳密には大学と言った方が適切であるが、）に蓄積されている学術情報、すなわち図書館資料の流通が時として何故円滑に流れないのか、図書館サービスとの関わりの中で考えてみたい。

1. 図書館資料配置の現状について

図書館は、資料を収集し、整理・保管し、利用者の研究・教育・学習等の利用要求に対し、これを効果的に提供するのが主たる役割である。従って、利用者の情報要求にタイムリーな情報提供ができなければ、図書館としての機能を果たせないことになる。

平成3年5月現在の本学附属図書館の蔵書は、図書2988.7千冊、で雑誌53.6千種で、本学の図書館サービスはこれら資料を主たる情報源として提供サービスが展開されている。現在、本学の図書館は1つの本館と4つの分館からなり、上記の蔵書は、本館1978.9千冊33.0千種、医分館342.2千冊6.7千種、北青葉山分館293.5千冊8.0千種、工学分館271.4千冊3.3千種、農分館102.5千冊2.0千種のように各学部の分野に併せて分散して所蔵されている。ユーザーはどの図書館を利用しても差し支えないが、図書館の窓口を介して必要な文献を求めても、タイムリーに入手できないことが起る。何故か。それは求める文献が図書館の書架上にはなくて、学部の図書室や研究室の書架上にあ

るからである。これは資料費等予算のしくみからくる結果であって、わが国の国立大学図書館の場合は殆どと言ってよい程同じである。図書館資料費は、本館、分館が固有にもつ予算よりも、研究費から支出される予算の方がはるかに大きく、研究用資料の選定収集については利用者である研究者のもとで行われる。登録と目録・分類など整理事務は図書館で行われ、その後は図書館に収納されることなく、研究の場である研究室あるいは学部の図書室に占有されて行く。

わたしは、資料すべてが図書館という情報の蓄積場に常にあるべきだとは思わない。むしろ、資料はそれを最も必要とする人のそばにあって、有効に活用されて然るべきだと思っている。たゞしかし、豊かなコレクションを構築するため、予算等との関係から、可能な限り資源は共有するとの考えに基づいて、占有ではなく共同利用ができるようなシステムにしたいものと考えている。

2. 図書館サービス改善の方向について

「図書館の最終目的は情報の利用提供である。」とは、関係者の間でよく言われていることである。情報提供サービスの中味を、もう少し突込んでみると、次のように分けて考えることができる。その一つは、情報要求者が研究・教育もしくは学習活動で直接活用するファクト・データの提供である。これは、図書・雑誌等の閲覧・貸出しサービスあるいはコピー提供サービスを通して行われる。二つには、知的活動に必要な情報を探すための二次的情報の提供である。オンライン目録やカード目録、各種所蔵目録、索引誌等の検索を介して書誌情報、所在情報が提供される。

こゝで取り上げたいのは前者についてである。前説においてもふれたように、学内にいることが分かっている図書や雑誌が、利用要求者にタイムリーに提供できるシステムをどのように作ったらよいかである。来年4月からは、学外への文献複写や現物貸借の申込・受付がオンラインで処理できるよう準備が進められている。これは学術情報センターが昨年度より3ヶ年計画で開発しているILL(Inter-Library Loan: 図書館間相互貸借)システムの運用を開始するためのものである。本学図書館においても館内にプロジェクトチームを発足させ、近く行われる試行テストへの対応等を練っているところである。

このような内外の動きおよび図書館本来の提供サービス機能の充実に向けて、学内所蔵の図書館資料を円滑に流通させるために、わたしは、本学図書館の構成組織をもう一度きちっと確認し、捉え直す必要があるように思うのである。

3. 図書館組織について

本学の附属図書館に関する規程からは、本学図書館は、前述の本館と四つの分館からなることが明文化されている。規程ではないが、組織に関するものとして、評議会承認(昭52. 7. 26)事項となっている「本館と分館の関係について」の一文があり、東北大学における図書館システムは、「本館を中心にして分館を衛星的に配置し、さらに必要に応じて部局図書室を設けたものとする。」と記述されている。更に部局図書室について、「…主題別図書室として運営していく、それにしてもあまり零細なものは設置しないようにする。これは相互利用の面の対応が難しく、この機能の不足するものは図書館システムの要素とは考えないからである。」と記されている。

現在、本学には30の部局図書室がある。その規模は大小さまざまであるが、中には担当職員がい

ない図書室も見受けられる。図書館にサーバーとしての機能がなければそれは図書館ではないように思う。従って、それを図書館の構成組織に組み入れるには少し無理があり、むしろ図書館のユーザーとして捉えた方がよいのではないだろうか。何故なら、図書館の情報提供サービスは、図書館組織のネットワークを通じて行わなければ、現実の問題として実現は困難だからである。資料があって、施設・設備があり、かつサービス担当要員が配置され、図書館組織の一つとしてサービスが提供されるのであれば、どこからどのような情報要求がなされようとも、資料の所蔵所在さえ分かっているならば、タイムリーにかつ、効果的な情報提供ができるのではなかろうか。

4. 図書館業務情報について

「組織は人なり。」とはよく耳にする言葉である。図書館組織に属する人々に、業務に必要な情報を十分周知することなく図書館の目的を達成することは不可能である。前節でふれた図書館組織が明確にされ、そこに携わる職員がきまれば、次は図書館サービスに対する図書館としての体制づくりと業務に必要な知識と技術に関する情報の伝達網の整備が大切である。今年度に入って、その一環をも兼ねたリーフレット「らいぶらり Now」を発刊した。これを機会に本学の図書館業務に携わる全職員が各人の場において、不特定多数の情報要求が、どのような形で存在し、どのように対応したらより適切なサービスとなり得るかにつき、正面から取り組んで欲しいものと期待している。そして、そこに求められるであろう新しい知識と技術に関しては、可能な限り収集し、業務情報として流し、図書館サービスの向上と充実に役立つようにしたいと思う次第である。

(やの てるお)

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

[学内特殊コレクション紹介]

医学図書館所蔵 「青木大輔コレクション」

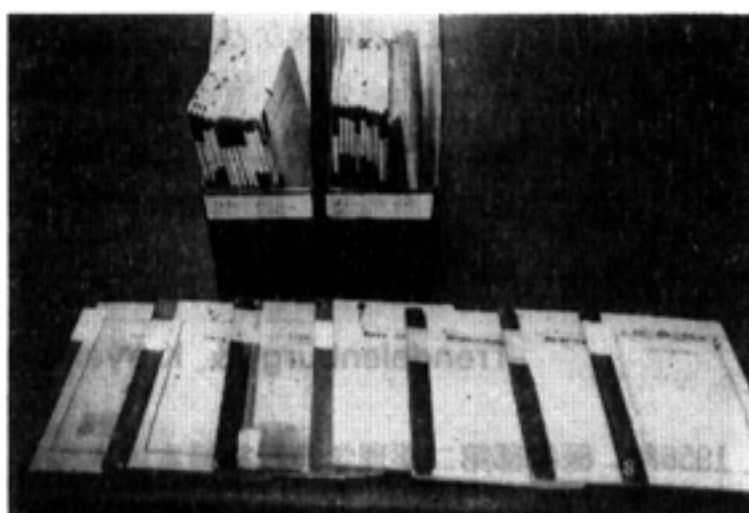
「青木大輔コレクション」は、宮城県衛生研究所の創設者で初代所長であった青木大輔博士旧蔵の医史学に関するコレクションで、文書以外のものも多数含まれるところから、「コレクション」と命名されたもので、山形敏一名誉教授、故玉手英典（仙台医学史研究会会長）両先生のご斡旋により、昭和50年4月にうら夫人から本学医学図書館にご寄贈いただいたものである。

青木大輔先生は明治34年横浜に生まれ、第二高等学校を経て、大正12年東北帝国大学医学部に進学、途中療養のため休学されたため、昭和7年に卒業された。その後細菌学を専攻され、母校の助手を務められた後、昭和11年宮城県衛生部技師として防疫の第一線で活躍された。後に、衛生研究所を創設されて数々の業績を挙げられるが、その間昭和12年に医学博士の学位を得ておられる。

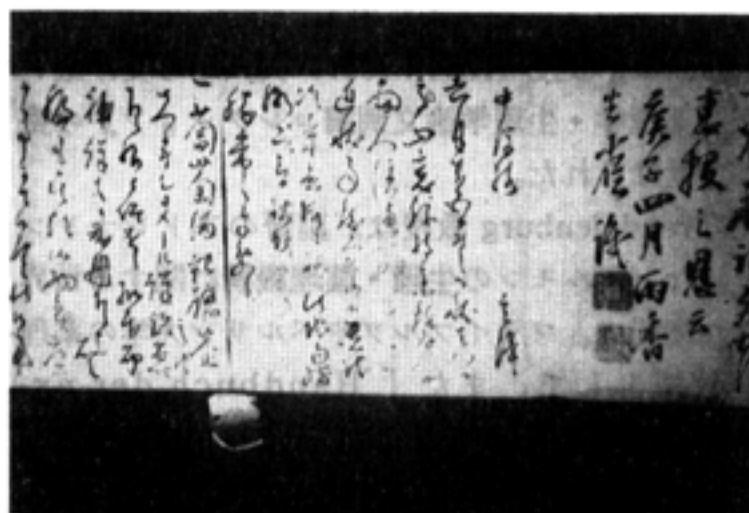
青木先生が医学史に興味をもたれたのは、昭和10年に医学部で行われた、京都帝大文学部富士川游教授の医史学特別講義を聴講されたことが契機ではなかったかと思われる。先生は、これを機会に東北帝国大学医学部医史学同好会を結成され、以来そのリーダーとして活躍され、医史学、特に宮城県、仙台藩に関係の深い数々の論文を発表されている。

当初、先生が特に関心を持たれたのは仙台藩の医育史であったが、のちに飢饉を背景とした東北地方の疫病史におよび、これをご専門の疫学的方法論により、実証的、計量的に解明するため、本務の傍ら実地調査によるデータ収集と解析が先生のライフワークとなり、晩年「過去帳から見た岩手の飢饉」などの著書に結実することになる。

藩政時代の疫病史調査において、文献資料から得たデータの裏付けとして過去帳を用いたのは、昭和13年「日本医史学会雑誌」に発表された「安政六年仙台藩におけるコレラの流行について」が最初であった。以後、戦中戦後の混乱期を東北地方から北海道南部、東京方面にまで寺院過去



大槻玄澤書簡（佐々木中澤あて）
右端は鈴木省三翁の解題



飢饉疫病データノートの一部

帳調査の旅が続いた。調査寺院は四百以上に、調査票は千数百枚に達した。この膨大なデータを基礎資料として、「日本疫病史」の完成が先生の究極の目標であった。「青木コレクション」の点数の約半数を占める膨大な過去帳データを駆使し、業半ばで途絶した先生の疫病史研究を継承する若い研究者の出現が待望されるところである。

青木先生が最初に私淑されたのは、仙台の郷土史家鈴木省三（雨香）先生であった。氏は藩政末期に漢方医学を修め、明治に入り大学東校（帝国大学医学部）を卒業して共立社病院医師を勤めたのち、仙台叢書編纂の中心的人物として活躍された方で、新旧医学に止まらず、経史文芸に通じた器量人であった。青木先生は、鈴木先生の最晩年にかれの著書「仙台風俗誌」の出版を手伝うなど、お二人の交際は数年にすぎなかったが、師弟の絆

は強く、深い影響を受けられたものと思われる。

したがって、コレクションの内容も、仙台出身の著名な蘭学者達の書簡、明治初期の大医赤星研造の遺品、著名な医家の書画軸など雨香先生の旧蔵品が多く含まれている。また、青木先生が編纂・執筆された仙台藩医学校、東北大学医学部五十年史、大槻俊斉関係の原稿等、蘭学関係の資料、

疫病に関する厄除け護符などさまざまなものからなっている。

仙台藩の医育史、蘭学、特に東北地方における飢饉・疫病史に関心をお持ちの方がおられるならば、是非ご一見をお勧めしたい。医学図書館にご来館いただければ、「青木大輔コレクション目録稿」が準備してあります。

Trendelenburg & Kraye's Collection of Scientific Papers

1956年、医学部第二薬理学教授故橋本虎六先生がハーバード大学に Otto Kraye 教授 (1899-1985) を訪問された折、クライヤー先生が1932年にベルリン大学を去るに際し、恩師 Paul Trendelenburg 教授 (1884-1931) 夫人から受け継いだ『薬理学・生理学論文別刷コレクション』の寄贈を受けられた。

Trendelenburg 教授は、副腎のアドレナリン分泌などホルモンの生理・薬理機構に関する世界的な権威で、フライブルグやベルリン大学の薬理学教授として、また「Handbuch der experimentelle Pharmakologie 1923」の著者としても高名な学者であった。

両教授に献呈された論文別刷の総数は、約

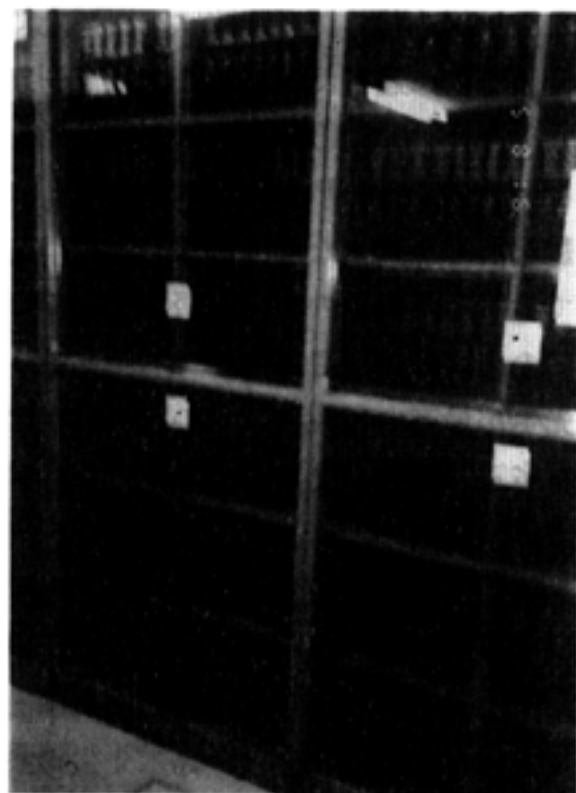
15,300部で、献呈者の氏名のアルファベット順に整理されている。クライヤー教授夫妻は、ナチの迫害を避けてベルリンからロンドン、バイルト等を経由してボストンに辿り着くのであるが、その後も恩師の遺志を継承して論文別刷の収集を継続されてきた。

橋本虎六先生は、薬理学・生理学の発展に一時代を画された両教授が長年に亘り集積された論文別刷は、後日薬理学・生理学の歴史を書く際の重要な素材になることを予見され、これを東北大学に招来されたのである。

研究者は、自著論文の別刷を内外の研究者にその評価を得るために献呈する習慣がある。したがって、高名な学者の場合は居ながらにして専門分野のしかも最も注目される主題についての最新情報が集中し、集積するという現象が起こる。これを“invisible college”とも呼び、研究者間の情報伝達系のひとつともなっている。

本コレクションは、当面の研究への貢献度は少ないかも知れない。しかし、十九世紀末から1960年代までの薬理学・生理分野での学問的發展を辿ることができる貴重なコレクションとして、学界史研究にとり第一級の資料といつてよいであろう。

別刷の中には、ノーベル賞受賞者をはじめ著名な学者直筆の献辞、自筆署名が散見され、Trendelenburg, Kraye 両教授の交友の広さが偲ばれる。なお、本学の生理学初代教授であった佐武安太郎先生(元総長)をはじめ、何人かの本学医学部関係者の献呈論文が含まれていることを付記しておきたい。



「トレンドレンバーグコレクション」書棚ノ一部

平成2年度特別図書購入報告

特別図書購入費（文部省配分）によって下記資料を購入し、本館に備え付けましたので、御利用下さい。

番号	資 料 名	内 容	出版形態等
1	Souvenirs entomologiques/ J. H. Fabre. 11 vols. (ファール「昆虫記」)	ファール「昆虫記」の挿絵入決定版(1920～1924年刊)とG. H. Legrosnoのファール伝を復刻したもの	リプリント
2	新世界大百科事典 全35巻	現代日本における質量共に最高位の百科事典	オリジナル
3	Bibliotheca Teubneriana. 46 vols. (トイブナー叢書)	ギリシャ・ローマ古典の基本テキスト	オリジナル
4	Inscriptionen griechischer Staat aus Kleinasien. 24 vols. (小アジア 出土ギリシャ碑文集)	古代ギリシャ・ローマ時代の小アジア都市遺跡出土の碑文を集成したもので、この時代の社会経済史資料として貴重なもの	オリジナル
5	Journal of vocational behavior. vol. 8～21 (職業行動雑誌)	職業的発達・職業興味・職業選択・職業適応等の職業行動についての、生涯発達の・比較文化的その他の観点による研究論文が掲載されている雑誌	オリジナル
6	A legislative history of the Tax Reform Act of 1986. 64 vols. (1986年米国税制改革法資料集)	米国の連邦所得制度の誕生以来、最大の改革といわれる1986年の税制改革についての法案・議会への報告・討論・公聴会・その他の関連資料を収録。1986年の改革案が通過した第99議会中に刊行されたものが中心であるが、それ以前の資料、及び第100議会中の資料も選択して収録	オリジナル
7	The complete state papers, Domestic series 2, part 5, Charles I, 1636-1637. 27 reels (英国国事文書集成)	チャールズI世統治下のイギリスの国家財政・行政問題・社会政策・経済政策等に関する国事文書の集大成	マイクロフィルム
8	Early English Books. 1641-1700 STC II, unit. 77-80. 81 reels (近世初期英語印刷文献集成)	清教徒革命から王政復古にいたる期間(1641年～1700年)の英国・英語初期刊本を豊富に収録	マイクロフィルム

平成2年度参考図書等購入報告

平成2年度に購入した資料の中で、特に高額な参考図書・研究用図書について報告します。参考図書はレファレンス・コーナーに、研究用図書は1号館書庫・2号館に配置してありますので、ご利用下さい。

○レファレンス・コーナー

- ①完結昭和国勢総覧／東洋経済新報社編 1991年 4冊
- ②科学技術35万語大辞典：インタープレス版 アイビーシー，1990年，2冊
- ③昭和前期日本都市地図集成／地図資料編纂会編 柏書房，1987年
- ④ American studies :an annotated bibliography .
Cambridge UP , 1986-90, 4 vols .
- ⑤ The bibliographer's manual of English literature / W . T . Lowndes .
Reprint ed . , 本の友社, 1990, 11 vols .
- ⑥ Poole's index to periodical literature , 1802-1906 / W . F . Poole .
Reprint ed . , 本の友社, 1990, 7 vols .

○レファレンス・コーナー（CD-ROM）

利用方法については、本館レファレンス・デスクにお問い合わせ下さい。

- ⑦学術雑誌総合目録 CD-ROM版 1989年 紀伊國屋書店，1990年
- ⑧CD 人情報：ビジネス・経済・政治 日外アソシエーツ，1990年
- ⑨電子広辞苑：広辞苑第3版 CD-ROM版 岩波書店，1988年

○1号館書庫

- ⑩議会制度百年史／衆議院，参議院編 大蔵省印刷局，1990年，12冊
- ⑪5千分の1江戸-東京市外地図集成／地図資料編纂会編 柏書房，1988-90
- ⑫ミケランジェロ・システィーナ礼拝堂／フレデリック・ハート [他] 著
日本テレビ放送網，1990-，3冊

○2号館

- ⑬朝日新聞 縮刷・復刻版 日本図書センター，1987-
大正元年～7年，昭和19年～25年

平成2年度寄贈図書報告書

1) 「松本文庫」

故松本金寿教授（本学名誉教授・教育学部）の蔵書が、御長子松本純一氏より本学に寄贈された。

松本教授は、昭和26年から御退官の43年3月まで、本学教育学部教育心理学科（発達心理学講座、児童・青年心理学講座）を担当され大きな足跡を残された。特に、戦後の民主教育の発展と確立にも意を注がれ、大学自治、大管法、勤評、中教審等々の時代・時事的課題に対しても、新教育擁

護の視点から多くの論文を発表されている。

今回受贈の遺蔵書2,677冊（和書2,180冊、洋書497冊）は現在整理中であるが、その内容は、教育学・心理学・社会学分野の専門書を主とするものの、学制・大学問題、青少年問題、女性史関係の図書も多く、改めて民主教育の在り方を終始追究された学風が偲ばれるものである。

2) 韓国出版物

韓国学術振興財団（Korea Research Foundation, Seoul, Korea）から62冊の図書が寄贈された。海外における韓国研究に資するため、同財団が逐年行なっている援助活動の一環としての本学への寄贈であるが、昨今、この分野の資料の充実が希まれている折でもあり、時宜を得た受贈であった。

全冊の紹介は為し得ないが、韓国文化の根幹をなす儒教・仏教・道教・天主教の史書、三省版「韓国思想全集」ほかの哲学書、近・現代の政治思想、社会運動の論著、更には芸術史、音楽史また「韓英辞典」ほかの参考書までの図書が含まれており、斯の分野の研究者を裨益するところが大きいものと思われる。

附属図書館商議会商議員名簿

平成3年4月1日現在

所 属	氏 名	任 期	所 属	氏 名	任 期
図 書 館 長	勾 坂 馨		歯 学 部 教 授	奥 田 禮 一	3. 4. 1～ 5. 3. 31
医 学 分 館 長	櫻 井 實		薬 学 部 教 授	金 子 主 税	2. 4. 1～ 4. 3. 31
北青葉山分館長	鳥 羽 良 明		工 学 部 教 授	守 田 徹	3. 4. 1～ 5. 3. 31
工 学 分 館 長	箱 守 京次郎		農 学 部 教 授	目 黒 熙	3. 4. 1～ 5. 3. 31
農 学 分 館 長	竹 内 昌 昭		教 養 部 教 授	阿 野 文 朗	3. 4. 1～ 4. 3. 31
事 務 局 長	藤 村 和 男		金 研 教 授	藤 森 啓 安	3. 4. 1～ 5. 3. 31
遺 生 研 教 授	服 部 勉	2. 4. 1～ 4. 3. 31	選 研 教 授	秋 葉 健 一	2. 4. 1～ 4. 3. 31
文 学 部 教 授	華 園 聰 磨	3. 4. 1～ 5. 3. 31	抗 研 教 授	田 中 元 直	3. 4. 1～ 5. 3. 31
教育学部教授	沼 田 裕 之	3. 4. 1～ 5. 3. 31	科 研 教 授	楠 勲	2. 4. 1～ 4. 3. 31
法 学 部 教 授	阿 部 純 二	2. 4. 1～ 4. 3. 31	流 体 研 教 授	新 岡 嵩	3. 4. 1～ 5. 3. 31
経済学部教授	鈴 木 良 隆	3. 4. 1～ 5. 3. 31	通 研 教 授	澤 田 康 次	2. 4. 1～ 4. 3. 31
理 学 部 教 授	荻 野 博	2. 4. 1～ 4. 3. 31	反 応 研 教 授	寶 澤 光 紀	3. 4. 1～ 5. 3. 31
医 学 部 教 授	林 典 夫	2. 4. 1～ 4. 3. 31			

東北大学附属図書館広報委員会設置要項

制定 平成3年5月14日 館長裁定

(設置)

第1条 東北大学附属図書館に東北大学附属図書館広報委員会（以下「委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、学内・外の本学図書館の利用者及び関係者に対し、東北大学附属図書館の業務及び活動、サービスの内容等について広報することを目的する。

(業務)

第3条 委員会は広報に関し、次の業務を行う。

- 一 東北大学附属図書館における広報の企画に関すること。
- 二 「東北大学附属図書館年次報告書」の編集に関すること。
- 三 「東北大学附属図書館（木這子）」の編集に関すること。
- 四 本館及び分館並びに部局図書室間の図書館に関する情報誌の発行に関すること。
- 五 その他東北大学附属図書館における広報に関すること。

(組織)

第4条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 総務課長
- 二 医学分館事務長
- 三 総務課図書館専門員
- 四 総務課長が推薦した総務課職員1名
- 五 情報管理課長が推薦した情報管理課職員1名

六 情報サービス課長が推薦した情報サービス課職員1名

2 前項第四号、第五号、第六号に掲げる委員は附属図書館長が委嘱する。

(任期)

第5条 前条第2項の任期は2年とする。

2 委員に欠員ができた場合の後任委員は、その者の属する課から推薦し、任期は前任者の残任期間とする。

(会議)

第6条 委員会に委員長を置き、第4条第一号に掲げる委員をもってこれに充てる。

2 委員長は委員会を召集し、議長となる。

3 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、総務課図書館専門員が処理する。

付 則

1 この要項は、平成3年5月14日から施行する。

2 東北大学附属図書館報（木這子）編集要項（昭和62年4月1日制定）は廃止する。

会 議

◎学 内

5.15 第1回附属図書館商議会

協議事項

- (1) 専門委員会設置（申し合わせ）（案）について
- (2) 図書館資料の保存対策について

報告事項

- (1) 外国雑誌センター館会議について
- (2) 国立大学図書館東北地区協議会について
- (3) 図書館情報処理システム技術審査委員会について
- (4) 資料区分（図書・雑誌）の作業について
- (5) 各分館からの報告について

7.5 第2回附属図書館商議会

協議事項

- (1) 専門委員会設置（申し合わせ）（案）について
- (2) 狩野文庫マイクロ化編集委員会の構成メンバーについて

報告事項

- (1) 平成3年度図書館運営費（共通経費）について
- (2) 平成3年度図書館資料費の配分について
- (3) 平成4年度外国雑誌の購入について
- (4) 大型コレクションの収書計画について
- (5) 第3回国立大学図書館協議会総会について
- (6) 各分館からの報告について

◎学外（本学を会場とする会議を含む）

4.22 外国雑誌センター館会議

（於：一橋大学）

4.25～26 第22次国立大学図書館東北地区協議会

（於：山形大学）

5.27 平成3年度国立大学附属図書館事務部課長会議

（於：東京医科歯科大学）

5.28 国立大学図書館協議会常務理事会

（於：東京大学附属図書館）

5.28 国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会

（於：東京大学附属図書館）

5.28 平成2年度国立大学図書館協議会理事会

（於：東京大学附属図書館）

6.20 第30回国公私立大学図書館協力委員会

（於：大阪大学附属図書館）

6.27～28 第38回国立大学図書館協議会総会

（於：富山県民会館）

9.26～27 第46回東北地区大学図書館協議会総会

（於：石巻専修大学図書館）

10.17 平成3年度第1回国立大学図書館協議会常務理事会

（於：名古屋大学附属図書館）

10.18 平成3年度第2回国立大学図書館協議会理事会

（於：愛知県産業貿易館本館）

10.18 平成3年度国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会

（於：愛知県産業貿易館本館）

11.14 第24回国立七大学附属図書館部課長会議

（於：京都大学附属図書館）

11.15 第65次国立七大学附属図書館協議会

（於：京都大学附属図書館）

11.28～29 国立大学附属図書館事務部長会議

（於：筑波大学附属図書館）

12.5～6 第6回国立大学図書館協議会シンポジウム（東地区）

（於：東京学芸大学）
（予定を含む）

第22回国立大学図書館東北地区協議会

標記会議が平成3年4月25日・26日の両日、当番館山形大学附属図書館を会場として、東北地区国立7大学より30名が参加して開催された。

協議に先立ち、山形大学横山館長の挨拶があり、続いて議長は慣例により当番館の横山館長が選出された。

出席者の自己紹介の後、議事に入り、矢野事務部長より国立大学図書館協議会等の活動状況について報告があった。引続き協議会理事会からの審議付託事項（「週40時間勤務制への対応について」）、来る6月富山大学附属図書館が当番館として開催される、第38回国立大学図書館協議会総会に提出する議題、要望事項等について協議の結果、東北地区から提出する議題、要望事項を次のとおり決定した。

1. 文部大臣等に対して特に要望すべき事項

- (1) 図書館施設の整備拡充について
- (2) 学術図書・雑誌等購入費の増額について

- (3) コンピュータ、高速ファクシミリ及び関連装置の整備促進について

2. 総会の分科会で検討するための協議題

(1) 第1分科会

- 1) ILL システムへの対応について
- 2) 外国雑誌業務の効率化について

—標準フォーマットの作成に向けて—

(2) 第2分科会

- 1) 学術情報ネットワークの支線網整備促進について

また、平成3年度の理事候補館及び所属部会ならびに地区連絡館がそれぞれ次のとおり選出された。

理事候補館

福島大学附属図書館（第1部会）

東北大学附属図書館（第2部会）

地区連絡館

東北大学附属図書館

平成3年度目録システム講習会（地域講習会）

標記講習会が、7月8日（月）～12日（金）の5日間、当館を会場に山形大学他5大学から14名の受講生が参加して行われた。

本講習会は、学術情報センターで開催されている目録システム講習会のほかに、各地域の特定大学図書館を会場として行うもので、「学術情報システムにおける目録所在情報サービスの推進と、大学図書館の目録業務担当者の教育訓練と受講機会の拡大を図る」ことを目的としたものである。

講習第1日目は、学術情報センター講師（目録情報課、酒井清彦係長、細川聖二事務官）による「目録システム概論」と「目録情報の基準Ⅰ」の

講義で始まり、第2日以降は当館講師6名による、端末操作、検索総論、検索技法、登録総論及び目録情報の基準Ⅱ（雑誌）の講義と目録データ登録の実習が行われた。

学術情報センターより、講師の派遣、テキストの配布等種々ご配慮いただき感謝申し上げます。また、業務多忙にもかかわらず、和漢書・洋書両目録情報掛及びシステム管理掛から14台の端末機の提供、マンツーマン方式による登録実習に両目録情報掛からの応援等、当館全職員の協力のもと5日間にわたる講習会を終了した。

人 事 異 動

発令 年月日	旧官職	氏名	新官職	備考
3.1.31	事務補佐員（医学分館整理掛）	稲 辺 博 美		退 職
3.3.31	農学分館長	山 下 恭 平		定年退職
"	総務課庶務掛長	横 山 剛		"
"	事務補佐員（情報サービス課閲覧掛）	島 田 幸 子		退 職
"	"（医学分館運用掛）	新 井 秋 子		"
"	"（" "）	池 田 美智子		"
"	"（" "）	小 松 幸 子		"
"	"（北青葉山分館管理掛）	志子田 ひとみ		"
3.4. 1		竹 内 昌 昭	農学分館長	併 任
"	総務課長	笠 原 勉	長岡工業高等専門学校事務部長	昇 任
"	図書館情報大学庶務課長	佐 藤 嗣	総務課長	配 置 換
"	医学分館事務長	阿 部 壽 雄	宮城教育大学附属図書館事務長	転 任
"	総務課専門員	小 野 和 夫	医学分館事務長	"
"	情報管理課専門員	佐 藤 定 夫	総務課専門員	配 置 換
"	大型計算機センター共同利用掛長	横 内 昭 久	総務課庶務掛長	"
"	北青葉山分館管理掛長	石 田 義 光	情報管理課専門員受入掛長併任	"
"	受入掛長	栃 原 孝 夫	医学分館整理掛長	"
"	学術情報センター事業部	松 井 好 次	情報サービス課相互利用掛長	転 任
"	目録情報課図書目録情報係長			
"	情報サービス課閲覧第二掛長	中 島 甫	工学分館整理・運用掛長	配 置 換
"	" 相互利用掛長	菅 沢 栄 治	情報サービス課閲覧第二掛長	"
"	工学分館管理掛長	川 村 隆 男	農学分館図書掛長	"
"	" 整理・運用掛長	武 田 光 佳	工学分館管理掛長	"
"	文部事務官（情報サービス課閲覧第二掛）	嶺 岸 文 男	仙台電波工業高等専門学校図書係長	昇 任
"	"（宇都宮大学附属図書館工学分館）	近 藤 真澄美	文部事務官（情報管理課洋書目録情報掛）	転 任
"	医学分館整理掛長	阿 部 佳 市	医学分館運用掛長	配 置 換
"	農学分館図書掛長	五十嵐 行 衛	北青葉山分館管理掛長	"
"		小 野 千恵子	事務補佐員（情報管理課洋書目録情報掛）	採 用
"		金 野 茂 子	"（情報サービス課閲覧第一掛）	"
"		堀 龍 かをる	"（" 相互利用掛）	"
"		笠 川 仰	"	"
"		佐々木 小百合	"	"
"		寺 島 敦 子	"	"
"		桜 田 素 子	"	"
"		須 藤 和 美	"	"
3.4.10		菅 原 弘 行	"（情報サービス課閲覧第一掛）	"
3.5. 1	文部事務官（総務課会計主任）	佐 藤 博 光	文部事務官（工学部原子核工学科事務室主任）	配 置 換
"	"（薬学部用度第一主任）	皆 川 昌 夫	"（総務課会計主任）	"
"	"（医学分館運用掛）	對 馬 庸 二	"（情報管理課受入掛）	"
"	"（情報管理課洋書目録情報掛）	佐 藤 優美子	"（宮城工業高等専門学校庶務課図書掛）	転 任
"	"（" "）	藤 沢 和 子	"（情報サービス課閲覧第一掛）	配 置 換
"	"（情報サービス課参考調査掛）	及 川 恵美子	"（医学分館運用掛）	"

発令 年月日	旧官職	氏名	新官職	備考
3.5.1	文部事務官（農学分館図書掛）	湯本 智子	文部事務官（情報サービス課参考調査掛）	配置換
"	"（情報サービス課閲覧第一掛）	沼田 恵美	"（情報管理課和漢書目録情報掛）	"
"	"（工学分館管理掛）	吉川 和幸	"（情報サービス課閲覧第二掛）	"
"	"（情報サービス課閲覧第一掛）	千葉 龍郎	"（工学分館管理掛）	"
"	"（大型計算機センター会計掛）	渡邊 彰	"（情報サービス課相互利用掛）	"
"	"（宮城工業高等専門学校庶務課）	柴田 淑子	"（農学分館図書掛）	転任
"	事務補佐員（情報管理課和漢書目録情報課）	佐藤 公子	事務補佐員（情報管理課逐次刊行物掛）	配置換
"	"（情報管理課逐次刊行物掛）	原 千代子	"（情報管理課和漢書目録情報掛）	"
"	"（"受入掛）	渡辺 春美	"（情報サービス課閲覧第一掛）	"
"	"（情報サービス課相互利用掛）	新井山 郁子	"（"）	"
"	"（マイクロ・ラジオ・ビデオ・センター総務掛）	千葉 幸代	"（北青葉山分館管理掛）	"
"	"	渡辺 美佐子	"（工学分館）	採用（5.1～11.30）
3.5.20	事務補佐員（情報管理逐次刊行物掛）	中鉢 たか子		退職
3.5.27		平井 圭子	事務補佐員（情報管理課逐次刊行物掛）	採用
3.6.30	事務補佐員（総務課記念資料室）	熊谷 信子		退職
3.8.1		大寺 裕	事務補佐員（総務課記念資料室）	採用
3.6.31	"（情報管理課和漢書目録情報掛）	熊谷 早苗		退職
3.9.7	"（総務課会計掛）	山内 裕子		"
3.9.24		大内 久美子	事務補佐員（情報管理課和漢書目録情報掛）	採用
3.9.30	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一掛）	金野 茂子		退職
3.10.1	"（総務課記念資料室）	大寺 裕	事務補佐員（総務課会計掛）	配置換
"	"	高橋 早苗	"（総務課記念資料室）	採用

○ 平成3年度総合研修員きまる

今年度の総合研修員の選挙が、去る5月21日～22日の両日実施され、下記の5名が選出された。

館長より委員の委嘱をうけ、この一年間職員のための研修計画と実施に活躍されることが期待されている。

松井 好次（相互利用掛長）
相川 晶子（相互利用掛）
佐々木 勝義（逐次刊行物掛長）
湯本 智子（参考調査掛）
米沢 誠（受入掛）

○ 永年勤務者の表彰

今年の東北大学永年勤務者表彰式が、6月24日（月）松下会館において行われました。

本学に通算20年勤務し職務に精励されたことにより、学長から表彰者1人ひとりに表彰状と記念品が授与されました。

今回表彰された図書館の方は次のとおりです。

総務課会計掛会計主任 皆川 昌夫